

島尻教育研究所 令和4年度「公立幼稚園・認定こども園・保育所（園）教諭等研修会 基礎ステージ①」

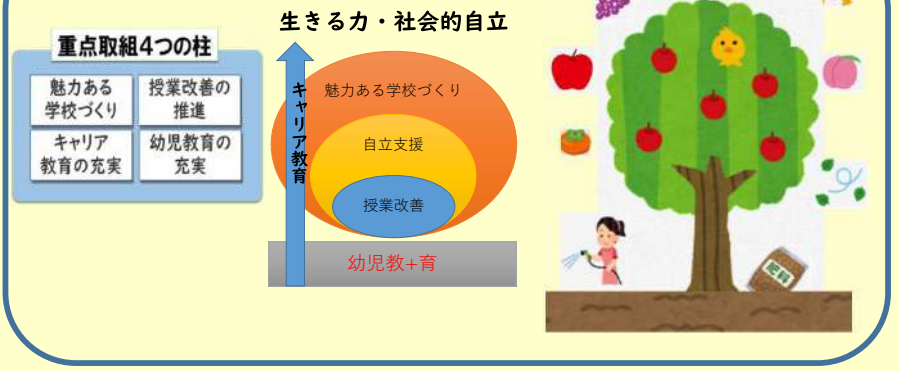
子ども主体の養護と教育が一体となった保育実践 ～こども理解・指導計画作成・振り返り～



令和4年5月13日（金）
沖縄県教育庁義務教育課幼児教育班
幼児教育アドバイザー 山城いと子

令和4年度 義務教育課全体構想 より

構想図



保育の営み

「自ら育とうとするものを育てようとする」
倉橋惣三

保育のスタートである0歳児クラスの子どもたちと過ごしていると、この言葉がぴったりだと思われる。

子どもは能動性を発揮して過ごしている。
・昨日より今日、そして明日へ伸びていく姿

幼児期の教育は「環境による教育」
・子どもたちの身近にある環境に自ら働きかけ、さまざまに感じ取り遊ぶ生活

幼児教育アドバイザー（山城）





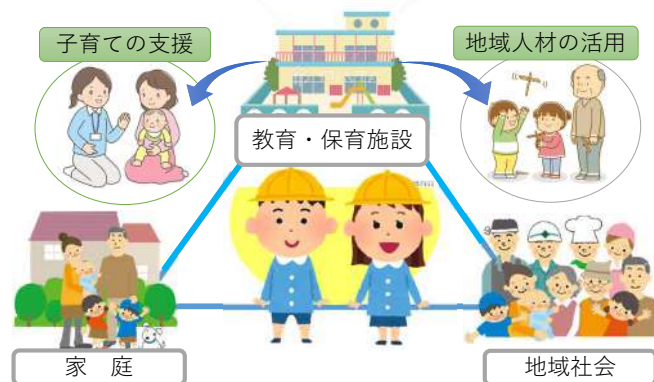
本日の研修内容

1. 幼児教育（就学前教育）の方向性
0～5歳児の保育共通事項（指針・要領等の理念 他）
2. 子ども主体の養護と教育が一体となった保育実践
子ども理解と保育の見通し
子ども一人一人を生かす指導計画
実践そして振り返り（事例演習含む）
3. “自ら学ぶ”保育者
子どもの育ち・学びの保障と保育の質の向上



乳幼児教育・保育
0歳児～5歳児共通事項
～指針・要領の理念～

「**幼児教育**」＝幼児が生活する
すべての場において行われる教育の総称



国の幼児教育の方向性

【令和の幼児教育】

日本のすべての幼児が

良質な幼児教育さらに保育を

受けられるようにする

自園の保育は良質な保育に向かっているでしょうか！

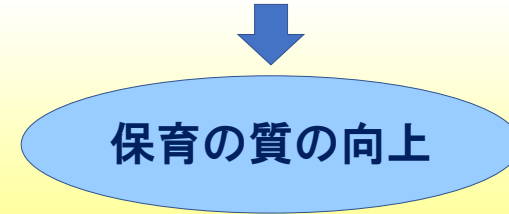
幼児教育の質に関する認識の課題

- ① **早期教育や小学校の前倒し**を行うことが質の高い教育と誤解されることがある。
- ② **遊びを通じて学ぶ**という幼児期の特性を踏まえた教育がその後の教育を培っているという理解が低い
- ③ **発達の連続性の重要性**に関する理解が必ずしも十分でない現状

中央教育審議会 初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会第3回会議 論点整理のたたき台（案）

要領・指針改訂（定）の重点事項

良質な幼児教育・保育



0歳から5歳へ、そして学童期へ、発達や学びはつながっていきます

人は周囲の環境に自ら働きかける力をもつ

- ◆人は生まれながらにして、自ら育つ力、周囲の環境に積極的に働きかけようとする力をもっています。
- ◆幼児期の心身の発達は、それぞれが独立して発達するものではなく、遊びの中で相互に関連し合って発達していきます。
- ◆幼児期は自己を表現することが中心の生活から、他者と関わり合う生活を通して、自らの発達の基礎が築かれています。

生涯にわたって
能動的に学び続ける



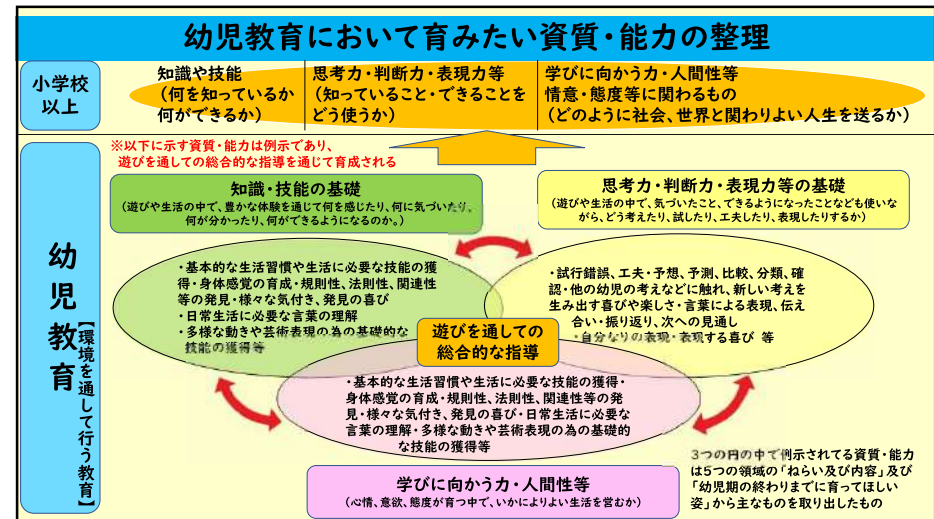
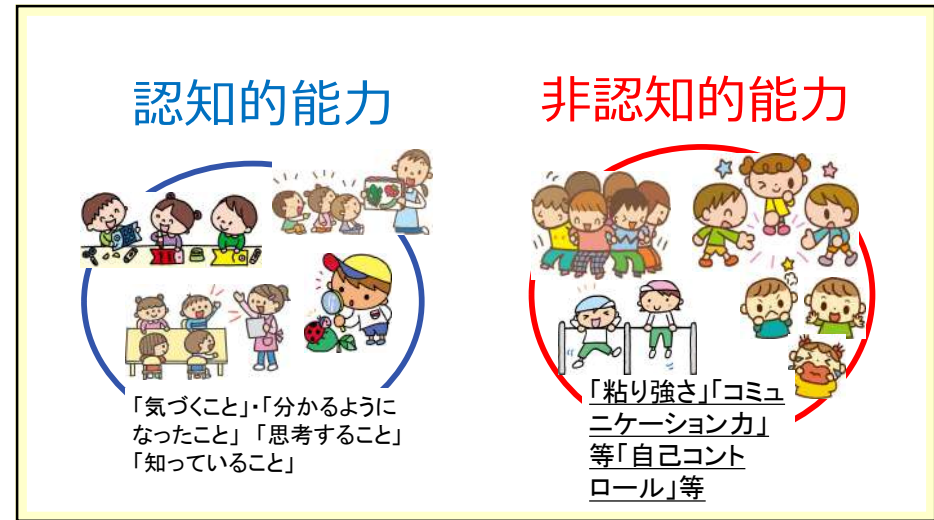
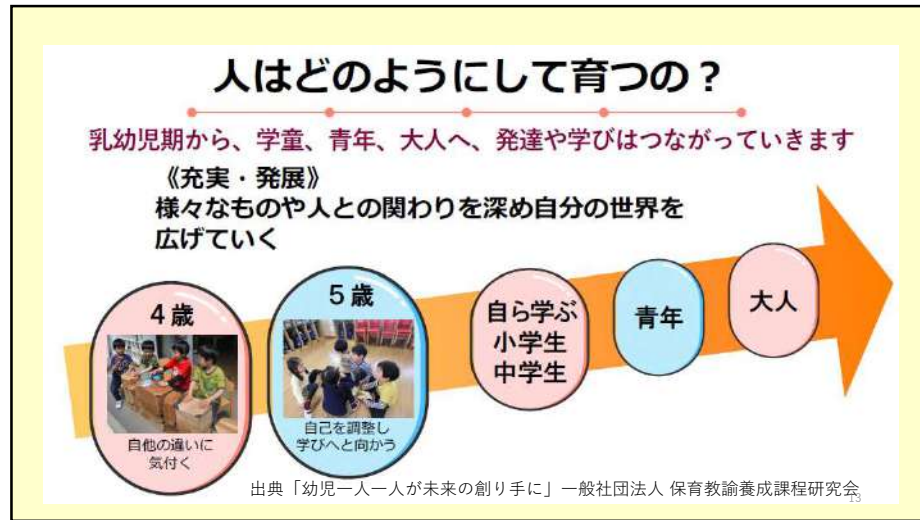
人はどのようにして育つの？

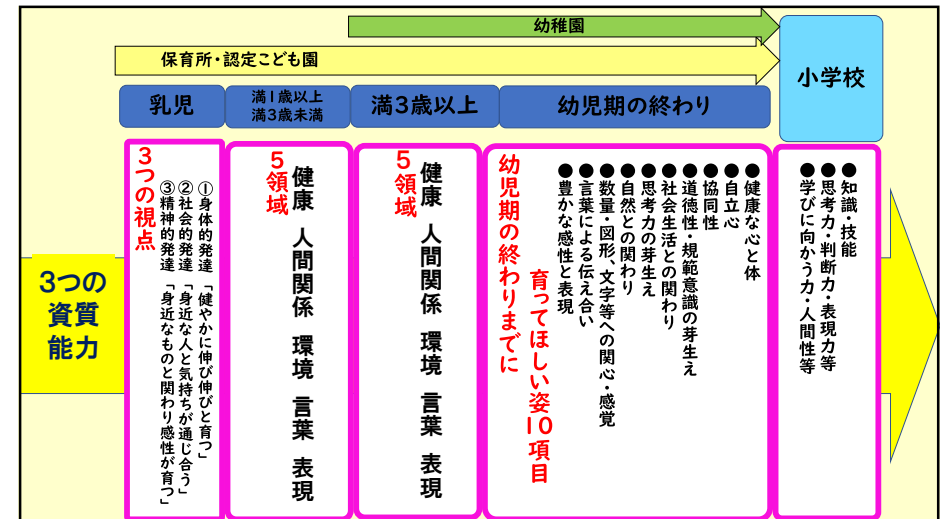
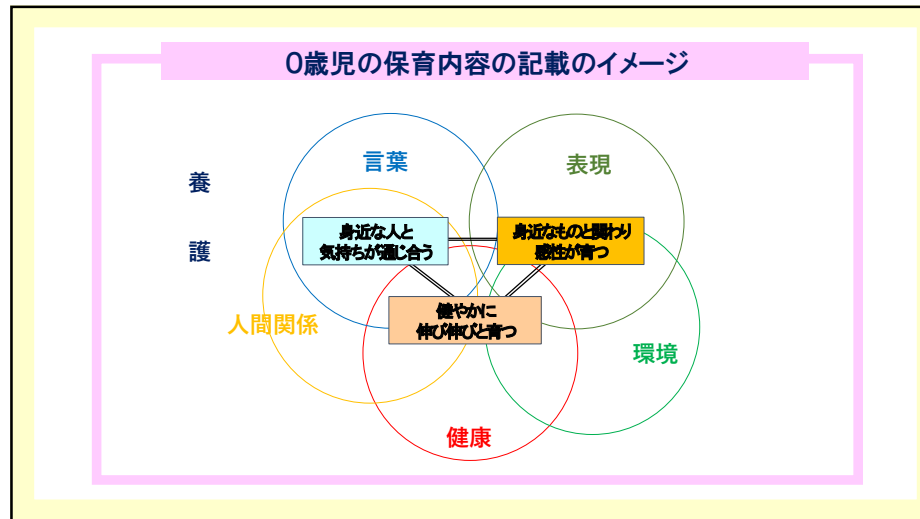
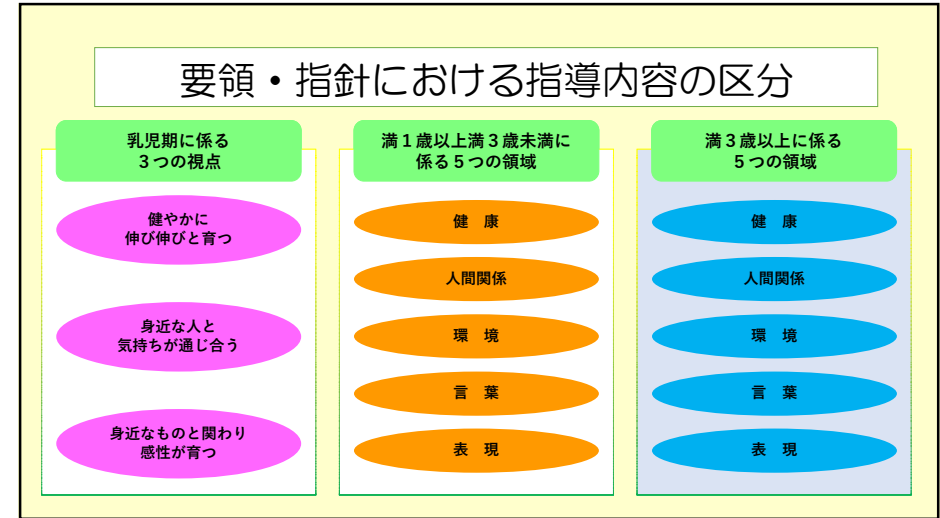
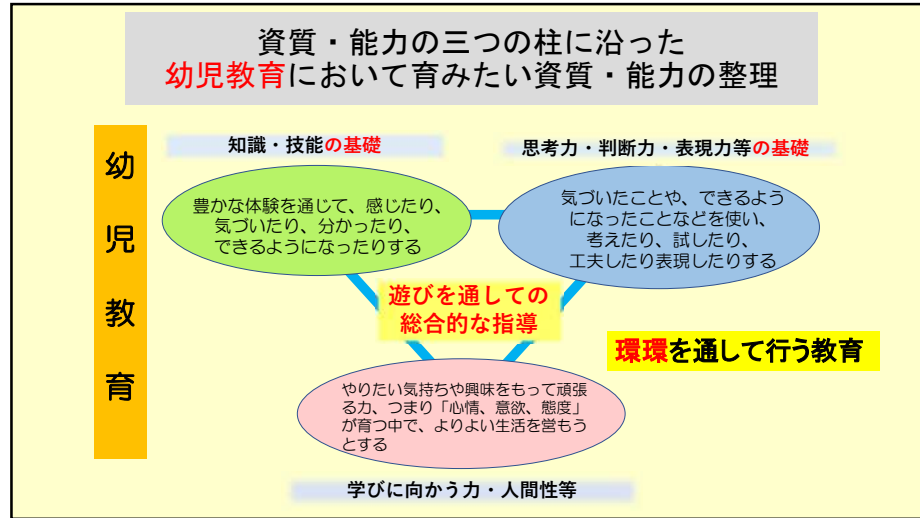
0歳から5歳へ、そして学童期へ、発達や学びはつながっていきます

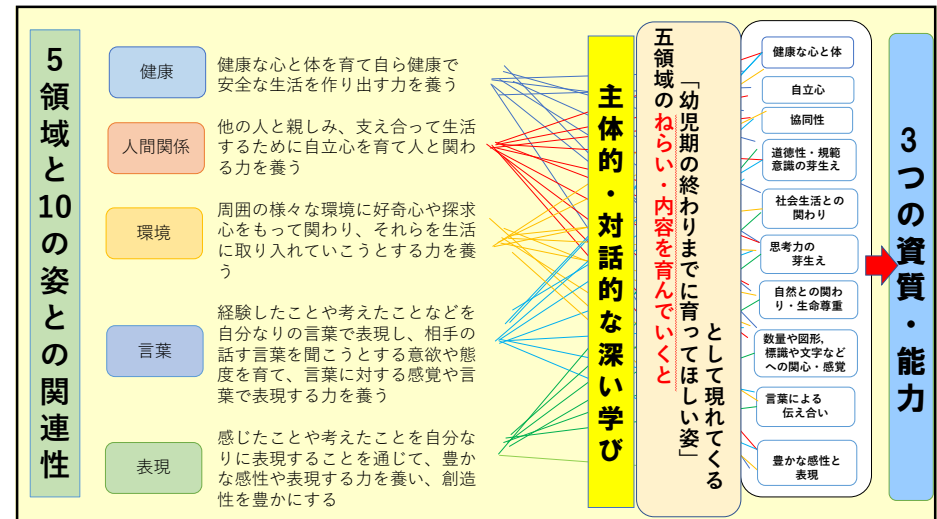
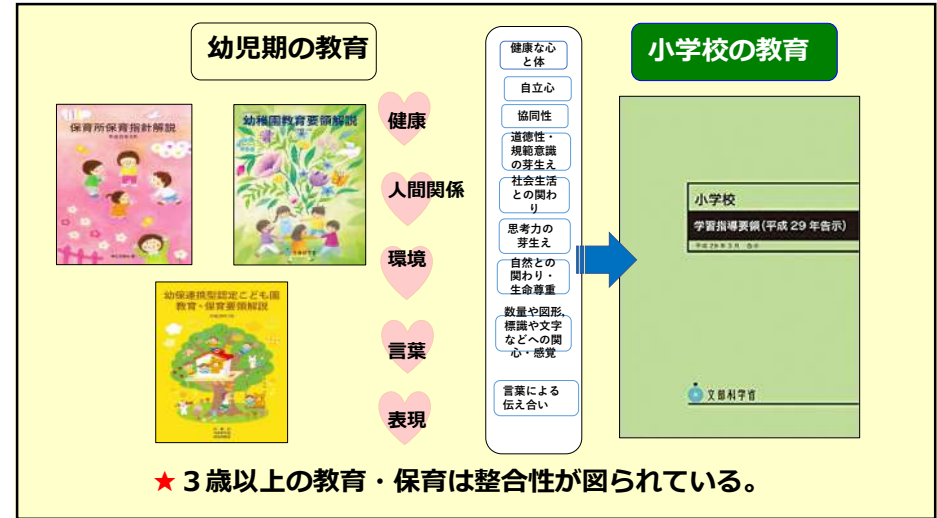
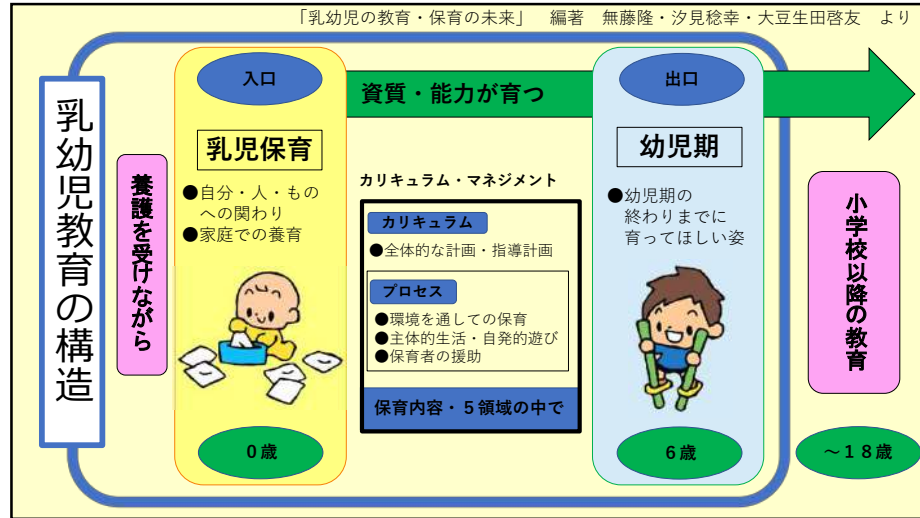
《安心・安定》幼児が健やかに育つ基盤



出典「幼児一人一人が未来の創り手に」一般社団法人 保育教諭養成課程研究会¹²







幼児教育の基本

1 幼児期にふさわしい生活

- ・ 保育者との信頼関係に支えられた生活
- ・ 興味関心に基づいた直接的な体験が得られる生活
- ・ 友達と十分関わって展開する生活

2 環境（遊び）を通しての総合的な指導

- ・ 興味・関心のある主体的な遊び環境の構成と援助

3 一人一人の発達に応じた指導

- ・ 個々の発達・個人差に応じた対応

遊びを通しての総合的な指導

幼児の主体性 + 保育者の意図

バランス良く絡み合って成り立つ



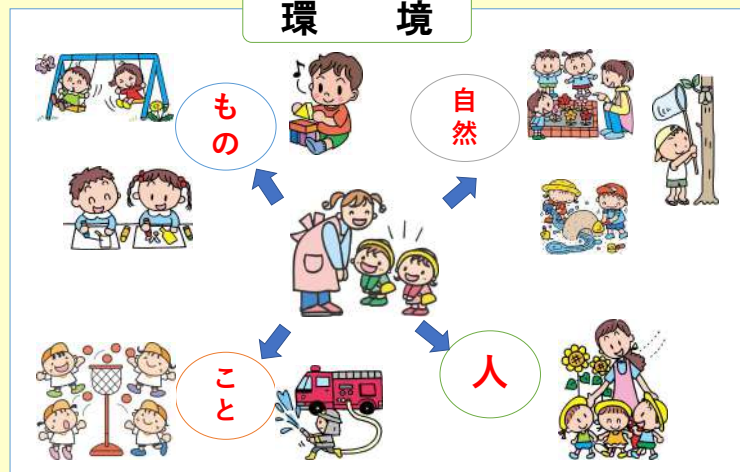
発達に必要な体験（遊び）



10の姿が育つ深い学びにつながるには
どうするか
保育の質が求められる

学び

環境



主体性を大切にした保育とは

幼児の主体性に基づいた
実践

養護と教育が
一体化された保育

発達の
保障

- ・ 放任保育
（やりたい放題）
- ・ 見守り保育
（安全確認）

発達の
保障

指導計画に基づき、ねらいを達成する為に必要な環境が
意図的・効果的に配置されている（環境構成）

幼児の主体性とは何か

- ① 「いつ」・・・興味・関心・意欲
- ② 「どこで」・・・信頼関係 見通し
- ③ 「誰と」・・・友達関係 発達
- ④ 「どのように遊ぶか」・・・興味・関心・発達・見通し
- ⑤ 「いつ終わるか」・・・達成感・納得・継続



※ 決定するのは子どもである！

「色水遊び」を例に主体的な学びを考える

保育者主導

幼児主体（？）

保育のねらい

感性を育てるために色水遊びをしよう！

保育のねらい

友達と楽しい色水遊びをしよう！

- ① 色水を作って遊ぼう
(なぜ今やるんですか?)
- ② ○○の花を使っていいよ
(他にもお花はありますか?)
- ③ こんな風にやってみたら
(このやり方であっている?)
- ④ この道具で色水が作れるよ
この容器を使っていいよ
(この道具だけでいいの?)
- ⑤ 色水遊びは、○曜日まで!
(期限をつくるのはなぜ?)

- ① ジュース屋さんをやってみる?
(発想力・創造性・企画力)
- ② 青い色水と赤い色水を合わせてみると
どんな色になるのかな?
(科学の眼と芽)
- ③ 紫色の色水を作るにはこの花を使おう
(予想⇒自信⇒達成感)
- ④ もっと色を出すためにどの道具が必要かな?
(根拠や理由を考える)
- ⑤ 明日は○○をやってみようか!


深い学びのある遊びとは

- ☆ のめり込む姿
- ☆ 遊び込む姿
- ☆ 夢中になる姿

子どもがこの姿を見せたとき

子ども主体の
養護と教育が一体となった保育実践
☆ 乳幼児理解 ⇒ 保育のねらい
☆ 環境による教育 ⇒ 指導計画作成

求められる幼児理解(こども理解)



○子どもは、身体的にも精神的にも**未熟な状態**で生まれ、大人に**保護**され**養育**される。

○大人と子どもの**相互作用**が十分に
行われることにより、**望ましい発育・発達**を続け、人間として必要な事柄を身につけることができる。

○人への**信頼感**と自己の**主体性**の形成が重要。

○子どもは、大人によって**生命を守られ、愛され、信頼されること**によって、**自分も大人を愛し、信頼していく**ようになる。

○乳幼児期は、人の一生のなかで最も著しい**発育発達**をとげる時期です。

○具体的にそれはどのような姿で現れるのか。具体的に乳幼児のイメージが描けることが**大事**。

○基礎的な知識が単なる知識の習得にとどまらず、**具体的なイメージをともなって理解**できること。

○一人一人の**個別の姿を、発育・発達の基本的な原則に照らし合わせることも大切**。発育・発達の道筋には、どの子どもにも**共通する一定の原理・法則**がみられる。

求められる幼児理解(こども理解)

○一人一人の子どもは、法則に従って、それぞれのペースで、それぞれ特有の姿をあらわしながら成長していく。

○保育者の仕事は、日々保育をするなかで、一人一人の子どもが育つ姿を注意深く読み取り、子供があらわしている姿の意味を、発育発達の原則に照らして的確に理解することが基本である。

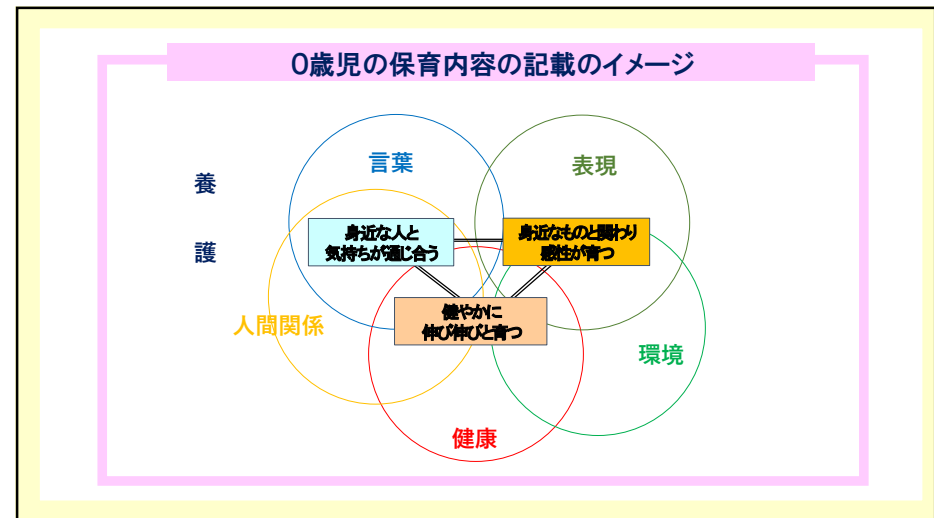
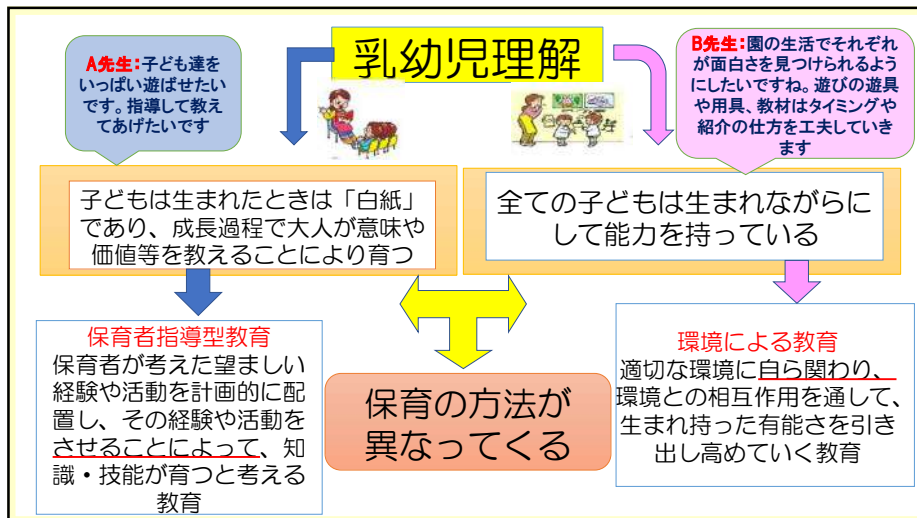
子どもを理解するために～発達をとらえる視点～

- ◆乳幼児の育つ姿に**感動する「心」**
- ◆事実をとらえる**素直な「目」**

- ①人はどんな環境の中で育っても発達する可能性を持っている。
- ②あらゆる子どもは、発達したいという願いをもっている。
- ③すべての人は、共通の発達の道筋をたどる。

幼児理解の柱

- ◆子どもの声に**聴き**入ること
- ◆子どもを**みる**こと
- ◆子どもから**学ぶ**こと



0歳児の発達過程(保育所保育指針参照)

保育所保育指針 第2章保育の内容
1 乳児保育に関わるねらい及び内容
(1) 基本的事項

主体性の発揮

《おおむね6か月未満》
誕生後、母体から外界への急激な環境の変化に対応し、著しい発達がみられる。首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる。視覚、聴覚などの感覚の発達がめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的に関わる大人との間に情緒的な絆が形成される。

主体性の芽生え

《おおむね6か月から1歳3か月未満》
座る、はう、立つ、伝え歩きといった運動機能が発達すること、及び腕や手先を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。特定の大人との応答的な関りにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなどやりとりが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。また、身近な大人との関係の中で、自分の意志や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。食事は離乳食から幼児食へ徐々に移行する。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領
第2節 乳児期の園児の保育に関するねらい及び内容 1 基本的事項

0歳児の子どもの姿



だっこ大好き

なんでも口で試してみたい

おんも、大好き!


先生がいるから遊べるよ

ぐくぐく飲んで、ぐっすり眠る

手足ぐんぐん・のびのび

ねえ、ねえ、こっち見て・喃語

0歳児の子どもの姿



〇ぐくぐく飲んで、ぐっすり眠る
生活リズムが大切にされ、清潔で気持ちの良い環境を整えてもらうことで、生理的欲求、依存的欲求が満たされ、生命の保持と情緒の安定が図られる。

〇だっこ 大好き
だっこで見つめ合う、にっこりと笑顔を交わす、やさしく話しかけてもらうなど、特定の保育者との愛情豊かで応答的なかわりにより、情緒が安定する。

〇手足ぐんぐん・のびのび
首が据わり、寝返り、腹ばいなど、全身の動きが活発になり、自分の意志で体を動かそうとする。

〇なんでも口に試してみたい
オッパイを吸って、たっぷり口唇の力を使う。気になるものがあると、口元へ持っていき、口の中で感触を確かめようとする。

〇ねえ、ねえ、こっち見て・喃語
泣く、笑う、喃語を発するなど自分の欲求を表現し、特定の大人とかかわろうとする。

〇おんも、大好き!
安心できる人的・物的環境の下で、見たり触ったりする機会を通して、周りの環境に対する興味や好奇心が芽生えてくる。

〇先生がいるから遊べるよ
保育者に見守られて、玩具や身の周りのものに触れて遊びを楽しむようになる。

1歳児の発達の特徴



わーい、歩けた

自分で、自分で

「マンマ」「マンマ」片言でお話

おいしく食べて・よく眠り

たんだらう

1歳児の発達過程と子どもの姿

★一人で歩くようになり、周囲の環境を積極的に探索する。親しい保育者には簡単な言葉で要求や思いを表現するようになるが、知らない人に対しては人見知りもする。ものを見立てて楽しむようになる。

○おいしく食べて・よく眠り

段階を踏んで離乳食から幼児食に進む。食べ物を自分で口に運んで食べようとする。生活リズムが整えられると、睡眠のリズムができてくる。

○わーい、歩けた

立って歩くようになる。自分からいろんな環境に関わろうとして、歩き方が上達していく。



○自分で、自分で

安心できる保育者との関係の下で、食事、排泄、衣類の着脱など身の回りのことを自分でしようとする気持ちが芽生える。

○なんだろう

手先・指を使って、物の操作をしたり玩具を触ったりするなど、探究活動が活発になる。

○「マンマ」「マンマ」片言でお話

大人の応答的なかわり下、指差し、身振り、片言などを使って、自分の気持ちや要求を伝えようとする。

2歳児の発達の特徴



2歳児の発達過程と子どもの姿

★手指や身体の運動能力が向上し、着替え・食事など生活習慣の自立を自ら進めていこうとする。自我の芽生え、言葉の発達に伴って自己主張を始め、友達との物の取り合いも起こる。好きなヒーローやヒロインが出てくる。

○よいしょ、よいしょ、楽しいね

くぐる、またぐ、走る、よじ登る、押すなど全身を使う動きを好み、手や指もより細かく使えるようになる。全身や手指の能力を使う遊びを好む。

○何でも「ジブンデ」するの

大人に手助けされながら、食事、排せつ、着替えなど簡単な身の回りのことを自分でしようとする。「ジブンデ」と、よく言うようになる。

○まねっこ、大好き

周りの人の行動に興味を示し、盛んにまねるようになる。歌をまねることもできるようになる。

○「~のつもり」「~のふり」

自分がしたいこと、相手にしてほしいことを言葉にする。遊具などを見立てて「~につもり」「~のふり」を楽しみ、簡単なごっこ遊びができる。



3歳児の発達の特徴



3歳児の発達過程と子どもの姿



★生活習慣の自立が進み、ひととおりのことができるようになる。友達と遊ぶことが盛んになり、お店屋さんごっこ、ヒーローごっこなどのごっこ遊びを楽しむようになる。言葉への関心が強くなり、新しい言葉や直接体験を通して知識を積極的に取り入れていく。

○見て見て自分で…

食事、排せつ、衣服の脱ぎ着、手洗いなど、基本的な生活習慣がほぼ自分でできるようになる。認めてもらうことで自信を持つ。

○「いれて」「だめよ」

初めての集団生活では、人とかかわることの楽しさを知る一方、とまどいや葛藤を味わうこともある。

○お友達大好き

周りの子どもに興味をもち始める。大人との関係から、子ども同士の関係に広がっていき、気の合う友達ができると活発に遊ぶようになる。

○なんでも触って…

土、砂、水などの自然物や、身近な動物、昆虫などに恐れを持たず関心を寄せ、見たり触れたりして、好奇心を発揮する。

○おしゃべり大好き

語彙が増え、自分の思いを言葉にして話すようになる。

○「わたし」「あなた」

イメージが豊かになり、ごっこ遊びなどで言葉によるやりとりを楽しむ。「わたし」などの一人称や、「あなた」などの二人称を使うようになる。

○うさぎさん ぴよ～ん

リズムを聞き分けて身体で表現したり歌ったりする。ウサギになって二拍子で跳ぶ、馬になってギャロップで走るなどができるようになる。

4歳児の発達過程と子どもの姿



★いくつかの動きを同時にできるようになる。思い切り走る、ボールをける、回転するなどの動きにも挑戦する。友達と言葉によって気持ちや意思を伝え合い、遊びを共に楽しむようになる。さまざまな表現活動を楽しむようになる。

○何でもひとりでするよ

身の回りの始末はほとんど自分でできるようになる。一日の流れに見通しを持つことができるようになる。

○こんなに動けるよ

バランスを取って全身を動かす運動が巧みになる。「～しながら～する」というふうにならぬ動きの連携ができるので、片足跳びやスキップが可能になる。

○どうぞ、いいよ…!

自分中心から、友達の思いにも気づくようになる。「～だけ～する」というふうにならぬ自分の気持ちを抑えて我慢をしたり譲ったりすることも可能になるが、抑えられないこともある。

○やってみたい!

複雑な動きができる身体発達をベースに自信がつき、試す・工夫する・頑張ろうとするなど、積極的な態度が増えてくる。

○右足には右の靴だよ

自分の身体を基準にして、上下、左右、前後、遠近がわかるようになり、物のグループ分けができるようになる。

○「なぜ?」「どうして?」

身近な自然など、疑問に思ったことをしきりに質問する。自分のイメージをもって話すようになる。

○こんなのできたよ

感じたこと考えたことを表現できるようになる。自分なりのイメージを持って、身近な素材を使って、描いたり作ったりする。

4歳児の発達の特徴



5歳児の発達の特徴



5歳児の発達過程と子どもの姿

★基本的な運動や生活習慣が身につく、生活や遊びを仲間と協動的に進めていくことができる。友達と協同的な集団活動を展開できるようになり、自分の思いを言葉やさまざまな方法で表現できるようになる。


○園が楽しい!
基本的な生活習慣が自立する。見通しをもって、みずから行動できることが増え、年長児として、下の年齢の子どもをいたわる姿も見られる。

○動いて元気！先生より跳べるよ
目と手と体が自在に動かせるようになり、複合応用運動ができる。

○みんなといっしょに!
集団を意識するとともに友達よさに気づきます。規範意識が高まり、園生活を自主的に送ろうとする。

○そうだそうだ、わかるよ
友達の気持ちを理解し、他者から見た自分の姿も意識するようになる。共感性が高まり、葛藤しながらも共通の目標に向かうことができる。

○なにか、おもしろそうだ
数量、図形、記号、文字、磁石などへの理解が進み、比べる、数えるなど科学遊びに興味をもつ。



○みんな命があるんだね
動植物の飼育栽培など、様々な経験から、命の大切さを感じ取ることがある。

○黙って考えてるの
ひとりごとが減り、自分の行為や計画を頭の中で考え、言葉で自分をコントロールするようになる。人の話を落ち着いたように聞けるようになる。

○言葉遊びができるよ
語彙が増え、想像力が豊かになるとともに、日本語のしぐみに気づく。しりとり遊びやさかさ言葉で遊べるようになる。

○自分で作ったよ
生活の中での感動からイメージを膨らませたり、友達の表現に発想されたりして、自己表現や創造活動をする。

○みんなで作ったよ
友達と共通のイメージや目的意識をもって素材や用具を適切に使い、共同で創作・表現する。

乳幼児期の発達区分（一つの考え方）

概ね6か月未満	しっかり抱っこ	ゆったりねんね
概ね6か月から1歳3か月	指差し発見	なあに見える
概ね1歳3か月から2歳	なんだろな	いたすらも成長のしるし
概ね2歳	ジブンでできた「イヤ」「ジブンデ」	
概ね3歳	何でも知りたい	やってみたい
概ね4歳	「ともだちとわたし」揺れるココロ	
概ね5歳	よろこびいっぱい	認め合う仲間づくり
接続期	自信と自立	みんなで育ちをつなぐ

未来を拓き、笑顔輝くなはのこガイド保育実践編（那覇市2011年）参照

乳幼児期の発達区分（一つの考え方）

枠内は、遊びの例

6か月～9か月	からだ 手指の使い方が… お座りが… 歯が… はいはいで…	○ひっぱるハンカチ ○段ボールカーでゴー ○はいはいでくぐりっこ ○こんには、さよなら ○グシャグシャ、ビリビリ ○さわってリンリン ○すわってゆらゆら
9か月～1歳	からだ 手指の細かい… 一人遊びが… つかまり立ちと… 一人で…	○ボールでやりもらいあそび ○はいはい追いかけっこ ○つまんで、取って ○フランクゆらゆら ○ポトンでコロコロ ○体にパタン ○太鼓トントン ○ロープで歩こう
1歳～1歳6か月	からだ 一人で… 体型が… 手指で道具を… 音への関心が…	○サッカーあそび ○落とし遊び (ストロー、おはじき、ボール 他) ○バリバリはがし ○シールあそび ○小麦粉粘土あそび ○積み木たおし ○洗濯ばさみつけ
ことば	喃語や音声模倣が… 欲求を声で… 言葉の意味がわかり…	
ことば	初語が… わかる言葉が…	
ことば	簡単な単語が… 大人の言葉を… 物事をグループ分けして…	
ことば	何でも自分で… 感情が… 行動模倣が…	
ことば	欲求を言葉で… 名前に的確に… 否定語が…	
ことば	探索行動が… 「短期記憶」が生まれ… 指差しを理解…	
ことば	所有欲が… 自分や体の名称を… 友だちに関心を…	

乳幼児期の発達区分（一つの考え方）

1歳6か月～2歳	からだ 手指の動きが… 様々な足腰の動き… 立体感や… 記憶力が…	○手押しでトコトコ ○型にはめよう ○のぼりおりあそび ○落ち葉拾い ○フタあげ、フタしめ ○おうちに入ろう ○スタンプおし ○トunnelくぐり
2歳～2歳6か月	からだ いろいろな走り方が… 足腰の… 手指の力を… 歯が生え…	○電車ごっこ ○お片付けできるかな？ ○いもむしごっこ ○おはげがでたぞ ○シャワーあそび ○お外で探そう ○ひも通し
2歳6か月～3歳	からだ 手指の動き… 腕の筋力が… いろいろな歩き… 足腰の…	○ボールをシュート！ ○空飛ぶジャンプ！ ○元気にあいさつ ○動物真似ごっこ ○お宝どこかな ○木の葉でマラカス ○ピースでアクセサリー ○いい香りを探そう
ことば	なんでの… 自分の名前が… 多語文が…	
ことば	自我の充実が… (物事のルール… 他者に物を… 自律心が…)	

乳幼児期の発達区分（一つの考え方）

3歳

からだ 運動能力の… 2つのことを… 手先の機能が発達…
 ことば 予測する力が… 数を数える…
 ところ 自分でやり通そうと… 社会性を身につけて…

- 跳び跳びフープめぐり
- わんわんレース
- コロコロボールリング
- しっぽとりゲーム
- 色めくりゲーム
- マーブル粘土あそび
- 歯医者さんごっこ
- 早すもうあそび

4歳

からだ 運動機能の… ~しながら… 手指の操作…
 ことば 複文で… 表現の機会を…
 ところ 自意識が… ~だけれども…

- くるくるジャンケン
- 虹を空にかけよう
- 輪っかかくぐり運動
- ボンボンボール
- 結んでほめて
- 落ち葉でファッション
- 新聞紙遊びいろいろ
(やぶり、新聞島、すもう 他)

乳幼児期の発達区分（一つの考え方）

5歳

からだ 運動機能の… 不安定な姿勢… 細かい作業… 表現が…
 ことば 助詞の使い方が… すじみちのある… 体験したことを…
 ところ お手伝いに… できたことを…

- たまごおにごっこ
- ボール運び競争
- 背中すもう
- 押し葉のしおりづくり
- 風船ドリブル
- うちわでホッケー

6歳

からだ 運動機能の… 高度な運動が… 乗ってみよう… 表現力が…
 ことば 手紙を書く… 比べる力が… ストーリーを作る
 ところ チームで楽しむ… みんなで助け合う… 目標に向かって…

- どこに行くのかな？
- フープで遊ぼう
- ・コロコロトンネル
- ・走ってひよん 他
- みんなのカルタ
- 言葉あてクイズ
- 手紙を送ろう

子ども主体の
 養護と教育が一体となった保育実践
 ☆乳幼児理解⇒保育のねらい
 ☆環境による教育⇒指導計画作成

すべての園で
 「全体的な計画」を作成しています

「全体的な計画」

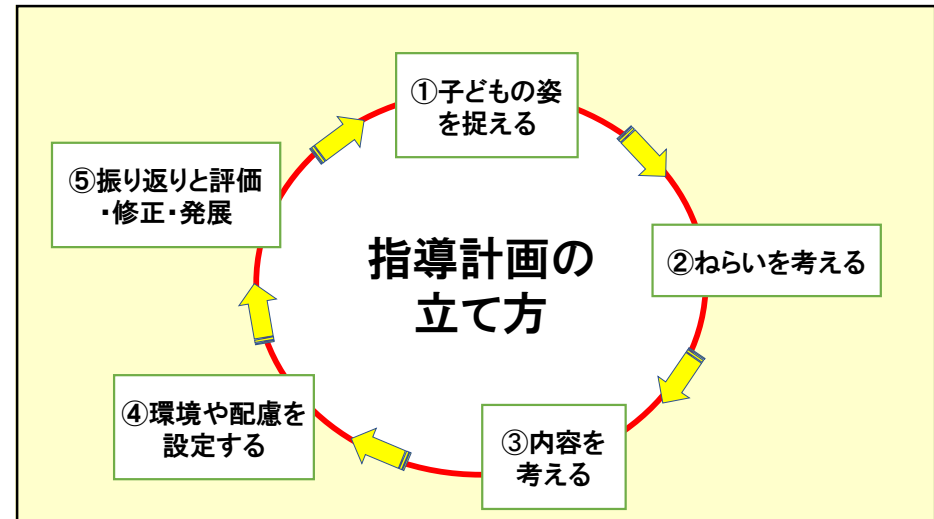
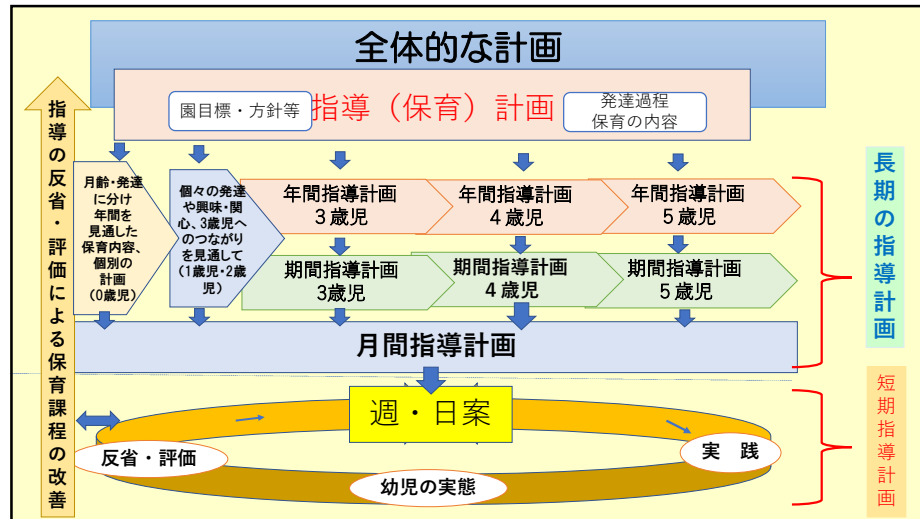
教育・保育指導計画

- ①教育・保育課程
- ②長期の指導計画
 - ・年間指導計画
 - ・期間指導計画
 - ・月間指導計画
- ③短期の指導計画
 - ・週間指導計画



園経営計画

- ①園経営方針
- ②園務分掌
- ③食育計画
- ④安全指導計画
- ⑤子育て支援計画
- ⑥保幼小連携教育計画
- ⑦年間行事計画



何のために指導計画を立案するのでしょうか

↓

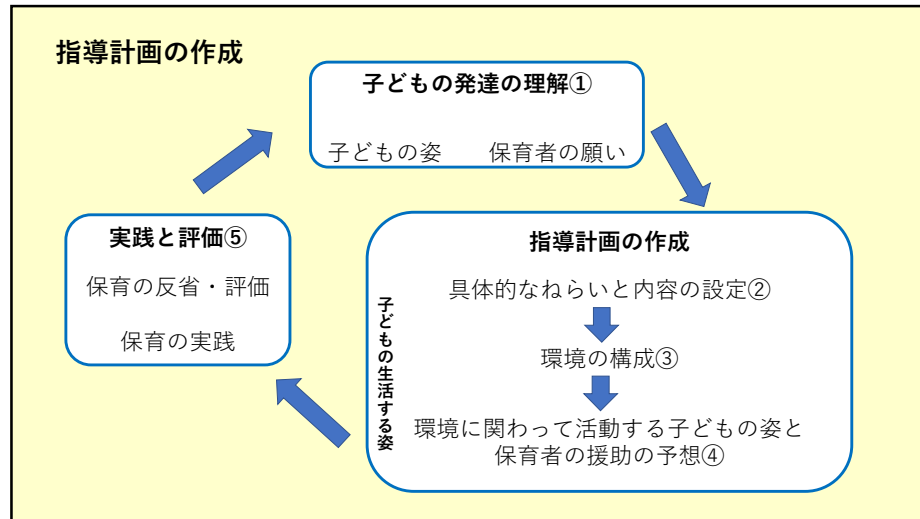
保育の道しるべであり
保育を楽しく進める手立てとなる
プラン

保育の計画と環境構成
幼児の主体性と保育者の意図

「**幼児の主体性**」と
「**保育者の意図**」とを
バランスよく遊びに絡ませていく

↓

発達に必要な体験



「子どもの姿ベース」の指導計画をつくらう！

- ①乳幼児の姿を捉える ⇒ クラス全体と個別の子どもの生活から
- ②ねらいを考え、設定し書く ⇒ 成長発達の見通しをもとに
- ③経験する内容を書く ⇒ 子ども主体性 子どもが主役
- ④環境構成・保育者の援助を書く
⇒ 環境構成とは子どもの活動をイメージして準備を整えること
子どもの興味関心、発達を見据えた個別の援助を
- ⑤実践記録はその日のうちに ⇒ 反省・考察（視点毎の情報整理）
- ⑥振り返りから子どもの再発見 ⇒ 子どもの姿を語ろう
- ⑦反省・評価から次の計画・立案へ ⇒ 保育の質向上につながる

「子どもの姿ベース」の指導計画をつくらう！

①乳幼児の姿を捉える

日々の保育での様子や記録から、
子どもの姿を捉え、
「子どもの姿」に記入します。

<p>乳児期に係る 3つの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> 健やかに伸び伸びと育つ 身近な人と気持ちが通じ合う 身近なものに関わり感性が育つ 	<p>満1歳以上満3歳未満に係る 5つの領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康 人間関係 環境 言葉 表現 	<p>満3歳以上に係る 5つの領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康 人間関係 環境 言葉 表現
--	---	--

0～5歳児の発達を知る

- 0～5歳は心も体も著しく発達していく時期。
- 子どもが現在見せる姿の中にも、次の発達段階への芽が隠れています。
- 発達の道すじと方向を理解して、保育の見通しに役立てましょう。

★幼稚園教育要領 第2章ねらい及び内容：
この章に示すねらいは、幼稚園教育において育みたい資質・能力を**幼児の生活する姿から捉えた**ものであり、内容は、内容を達成するために指導する事項である。各領域は、これらを**幼児の発達の側面から5領域にまとめ示した**ものである。内容の取扱いは、**幼児の発達を踏まえた指導を行うに当たって留意すべき事項**である。

★保育所保育指針 第2章 保育の内容
この章に示す「ねらい」は、第1章の1の(2)に示された保育の目標をより具現化したものであり、子どもが保育所において、安定した生活を送り、充実した生活ができるように、保育を通じて育みたい資質・能力を、**子どもが生活する姿から捉えた**ものである。また、「内容」は、「**ねらい**」を達成するために、子どもの生活やその状況に応じて**保育士等が適切に行う事項と、保育士等が援助して子どもが環境に関わって経験する事項**を示したものである。

★幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項 第1節 ねらい及び内容の考え方と視点や領域の編成
この章に示すねらいは、幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力を**園児の生活する姿から捉えた**ものであり、内容は、**ねらいを達成するために**指導する事項である。
各視点や領域は、この時期の発達の特徴を踏まえ、教育及び保育のねらい及び内容を乳幼児の発達の側面から、乳児は三つの視点として、幼児は五つの領域としてまとめ、示したものである。内容の取扱いは、**園児の発達を踏まえた指導を行うに当たって留意すべき事項**である。

乳児保育の3つの視点	
<p>「健やかに伸び伸びと育つ」 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う</p> <p>(1) 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 (2) 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。 (3) 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える</p>	<p>☆保育所保育指針 第2章 保育の内容 1 乳児保育に関わるねらい及び内容 (2) ねらい及び内容 ア (ア) ねらい (イ) 内容 (ウ) 内容の取扱い イ ウ</p> <p>☆幼保連携認定こども園教育・保育要領 第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項 第2節 乳児期の園児の保育に関するねらい及び内容 2 各視点に示す事項 (1) 1ねらい 【内容】 【内容の取扱い】 (1) (3)</p>
<p>「身近な人と気持ちが通じ合う」 受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う</p> <p>(1) 安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる (2) 体の動きや表情、発声等により、保育教諭等と気持ちを通わせようとする。 (3) 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。</p>	
<p>「身近なものに関わり感性が育つ」 身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う</p> <p>(1) 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。 (2) 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。 (3) 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する</p>	

1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の教育・保育のねらい

☆幼稚園教育要領
第2章 ねらい及び内容 各領域 1ねらい 【内容：2 内容の取扱い：3】

☆保育所保育指針
第2章 保育の内容
2 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容
(2) ねらい及び内容 ア (ア) ねらい・・・オ (ア) ねらい (イ) 内容 (ウ) 内容の取扱い
2 3歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容
(2) ねらい及び内容 ア (ア) ねらい・・・オ (ア) ねらい (イ) 内容 (ウ) 内容の取扱い

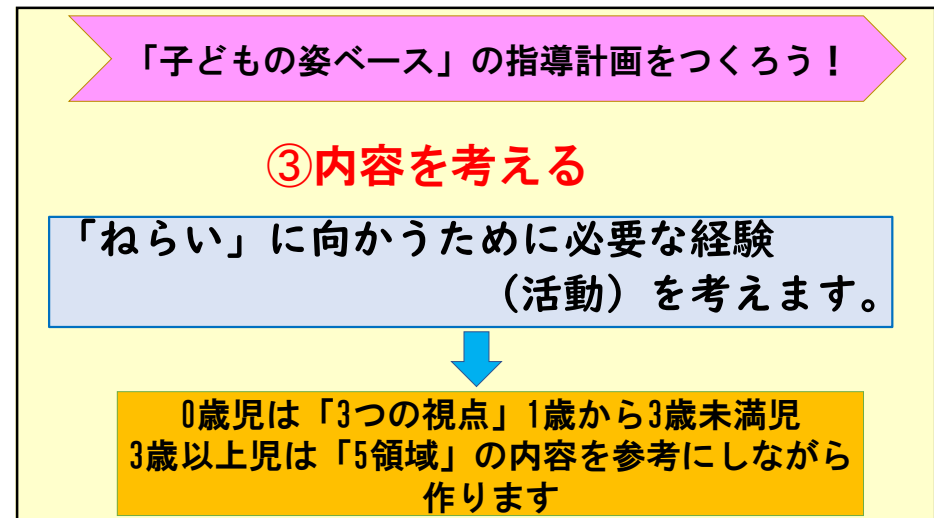
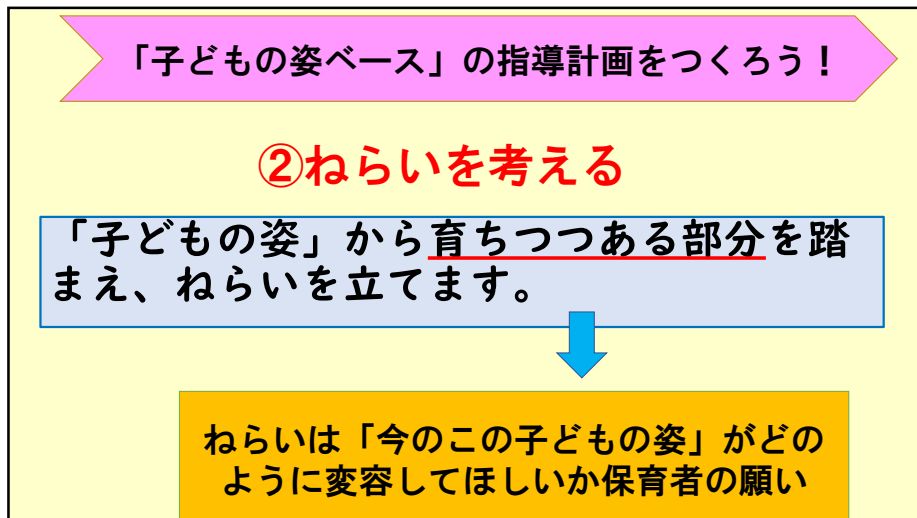
☆幼保連携認定こども園教育・保育要領
第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項
第3節 満1歳以上3歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容
2 各領域に示す事項
(1) 「健康」1ねらい 【内容】 【内容の取扱い】 (5) **「表現」1ねらい** 【内容】 【内容の取扱い】
第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育に関するねらい及び内容
2 各領域に示す事項
(1) 「健康」1ねらい 【内容】 【内容の取扱い】 (5) **「表現」1ねらい** 【内容】 【内容の取扱い】

1歳以上3歳未満児のねらいと内容	3歳以上児のねらいと内容
<p>健康：健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。</p> <p>●3つのねらい ●内容：7項目</p>	
<p>人間関係：他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う</p> <p>●3つのねらい ●内容：6項目</p>	
<p>環境：周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。</p> <p>●3つのねらい ●内容：6項目</p>	
<p>言葉：経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。</p> <p>●3つのねらい ●内容：7項目</p>	
<p>表現：感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。</p> <p>●3つのねらい ●内容：6項目</p>	

1歳以上3歳未満児のねらい	3歳以上児のねらい
<p>健康：健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。</p> <p>①明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。 ②自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。 ③健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。</p>	
<p>人間関係：他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う</p> <p>①園での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。 ②周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりを持つとする。 ③園の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。</p>	
<p>①明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 ②自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 ③健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。</p> <p>①園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 ②身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 ③社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p>	

1歳以上3歳未満児のねらい	3歳以上児のねらい
環境：周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。	
①身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や感心をもつ。 ②様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。 ③見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。	①身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や感心をもつ。 ②身近な環境に自ら関り、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 ③身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。
言葉：経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。	
①言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。 ②人の言葉や話などを聞き、自分で思ったことを伝えようとする。 ③絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。	①自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 ②人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 ③日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士（先生）等や友達と心を通わせる。

1歳以上3歳未満児のねらい	3歳以上児のねらい
表現：感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。	
①身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。 ②感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。 ③生活の遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。	①いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。 ②感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 ③生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。



「子どもの姿ベース」の指導計画をつくろう！

④環境や配慮を設定する

「ねらい」「内容」に対して子どもが自ら「する」ために、どんな環境・援助が良いのかを考え工夫しましょう。

保育者の援助の仕方は、その子やその場によって何通りもありますが、直接指示に頼らず、**どんな環境、援助で自発性が引き出せる**のか、それを考えながら見つけるのが**保育者の“やりがい”**になります。

事例：保育者の思いで指導計画はこう変わる 「経験する内容」を書く

A先生が書いた「幼児が経験する内容」

- 暑くなったら上着を脱いだり、汗を拭いたりするようにさせる。
- 自分で服や持ち物を片付けるようにさせる。
- 友達に声をかけたり、仲間に入ったりして遊べるようにする。
- 水や砂に触って遊べるようにする。
- 水に絵具を入れると色水ができる事を見て知る。

子どもが経験して習得していくことを、A先生は言葉で伝えようとしているようです。

A先生



B先生が書いた「幼児が経験する内容」

- 雨の日は手伝ってもらいながら、傘の片付けかたやぬれた物の片付け方を知る。
- 汗を拭くと気持ちが良いことや、上着を脱いで温度を調整すると快適なことに気づく。
- 水や砂、草花に触れて、自分なりに感触を感じて遊ぶ。
- 興味を持った物や遊びに自分からかかわっていく。
- 身近な素材を見たり、手を加えたりして遊ぶ。
- 色水など興味を持った物にかかわって遊ぶ。
- 友達と一緒に遊んでいることに関心を持つ。
- 友達と遊びながら、言葉の使い方がわかる。
- 一緒に遊ぶ中で、友達に自分の思いを言葉や動作で表す。

できるだけ子どもが自ら経験するように、保育者の援助も考慮しています。

B先生



事例：保育者の思いで指導計画はこう変わる 「環境構成・保育者の援助」を書く

A先生が書いた 「環境の構成と保育者の援助」(部分)

- 気温の変化を教えて、衣服の調節をするように声をかける。
- 衣服や持ち物を片付ける場所をいっしょに確認する。
- 色水ができる不思議さを感じられるように、よく見るように声をかける。
- 色水など新しい遊びについて保育者が語りかけて、感じたことや興味を持ったことを語り合うようにする。
- 友達と遊びたいときの声のかけ方を保育者が教えていく。

子どもに言葉で援助しようとしている姿が目立ちます。



A先生

B先生が書いた 「環境の構成と保育者の援助」(部分)

- 傘やレインコートを片付けやすい環境を整え、自分からやろうとしたときに十分に認める。
- 雨や色水遊びでぬれたり、汗をかいたりしたら、自分で着替えたり、拭いたりできるような環境を整える。必要に応じて声をかける。
- 色水遊びでは興味を持った子どもが皆遊べるように、用具を用意しておく。関心の広がりに応じられるように、容器は数種類用意する。じょうごを用意して、用途を子どもたちが使いながら発見できるように必要な場面で問いかける。水場の近くでタイミング良く始められるように、場所を確保し、整えておく。
- 友達の間わりが少ない子どもには、遊びの中で「入れて」「いいよ」のやりとりができるように、必要に応じて援助する。

どんなときに声をかけるかなど、子どもの様子をよく見ながら保育者の出方に気を配っています。



B先生

個別的な計画の必要性

一人一人の成育歴・心身の発達・活動の実態に即して「個別的な計画」を作成されることが求められる。

保育所保育指針：指導計画の作成イー(7)

☆3歳未満児については、一人一人の成育歴、心身の発達、活動の実態に即して個別的な計画を作成すること

幼保連携型認定こども園教育保育要領：指導計画の作成上の基本事項①ーア

☆指導計画は園児の発達に即して園児一人一人が乳幼児期にふさわしい生活を展開し、必要な体験が得られるようにするために、具体的に作成するものとする

子ども主体の 養護と教育が一体となった保育実践

☆保育の振り返り

事例：保育者の思いで指導計画はこう変わる

A先生が書いた
「反省と評価」（色水遊びの部分）

色水遊びは、テラスにテーブルを用意したので、雨の日でもできて良かった。
子どもたちに言葉をかけたが、みんなが集まるまでも時間がかかってしまった。色水を作ってみせると、面白そうに見ていた。
ただ、感想をもっと話してくれと思ったが予想外に反応が薄かった。室内よりも園庭でやった方が子どもも参加できて良いかもしれない。



A先生

B先生が書いた
「反省と評価」（色水遊びの部分）

色水遊びは、友達と遊ぶ経験の少ない子どもに声をかけて始めた結果、人間関係が広がるようになった。色水への興味・関心、お店さんごっこが予想以上に広がり、容器がもっとほしそうなこの姿も見られた。さらに容器の数と種類について工夫したい。しょうごも思った以上に人気を呼んだので、増やした方が良かった。
今日、白い絵具も出して3色にしたが、黄色と赤の2色の方が色の変化に集中できたのではないか。3色を出すのはまだ早かったのかもしれない。
草花からも色が出ることも知らせていきたい。



B先生

事前配布事例をもとに、振り返り・幼児理解の視点を考える。

★事例1, 4の視点

- 子ども（園児）の姿をその子ども（園児）らしさや育ちつつある姿として肯定的に捉える。
- 生活の中にある「具体的な事実」から、その園児の中で育ちつつあるものを理解する。
- 子ども（園児）と保育者との温かい関係を育てる。 他

★事例のように、日々の記録（日誌、エピソード記述等）を通して子ども（園児）一人一人を理解する。

発達の実情と幼児理解

一人一人の発達を着実に促す
保育が生み出されているか

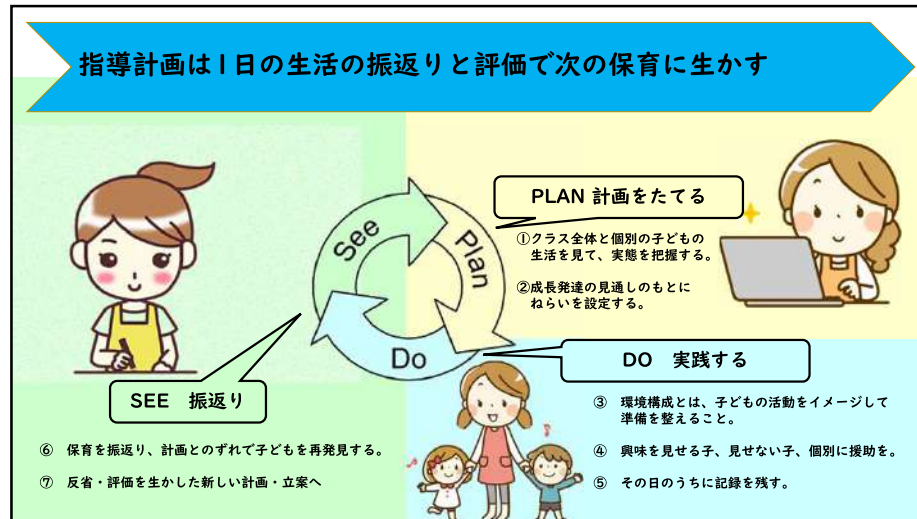
乳幼児が何を体験し、どのような力が
身についているかという視点で反省・評価

園内研修の充実を図る

映像による
記録の活用

週案の幼児
の姿の変容

指導の過程
を振り返る



【保育の振り返り】

ねらいは、保育の振り返りや評価をするときの視点として参照していきましょう。

子どもの発達段階を理解したうえで、領域を考慮に入れると **どんな経験や遊びを増やしていくか、どんな環境を用意するのがよいか**が見えてきます。

保育記録を通して反省・評価

保育者としての幼児とのかかわりを振り返る



幼児理解をより深め、次の保育へ

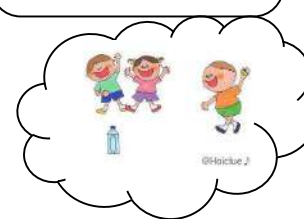


振り返り評価として書き記す

毎回の遊びがどのようにつながり、学びがどのように発展していったのか。

保育者の関わり方は適切であったか。

環境の構成はふさわしいものであったのか



“自ら学ぶ” 保育者

子どもの育ち・学びの保障と保育の
質の向上

保育者の仕事

1. 育む者としての保育者⇔子どもにとって
 - (1) 保育者の存在：身近な存在で影響力が大きい
 - (2) 保育者の役割：「安心基地」「憧れのモデル」
2. 育まれ育つ者としての保育者
 - (1) 保育者としての成長
施設の役割及び機能が適切に発揮されるように…
 - (2) 保育者の求められるもの
「保育者同士の関係性」「園の風土の醸成」

保育者の同僚性とカリキュラム・マネジメント

1. 保育の質を向上させる循環を作り出す：子どもの姿と地域実情も踏まえて編成
 2. 保育の質を向上させる方法としてのカリキュラム・マネジメント
 - (1) PDCAサイクル：スパイラル・アップを！
 - (2) 目標管理：確かな目標設定を！
 3. 自律的なカリキュラム・マネジメント：指針・要領に従ったうえでの創意工夫
 4. カリキュラム・マネジメントへの保育者の参画
保育者個々及び園の組織レベルで自覚的省察を！
 5. カリキュラム・マネジメントを豊かにする同僚性
経験値を集結し保育を交し合う
- カリキュラム・マネジメントと同僚性⇒保育の質向上、保育者の成長、組織の進化へ

質の高い幼児教育に必要なものとは？



おわりに

教育・保育現場の皆様方が
エッセンシャルワーカーとしての日々の保育活動、
専門職としての使命感で懸命に
取り組んでおられることに感謝し
エールをおくります。



お疲れさまでした。